

## 基地問題等調査特別委員会会議録

### 招 集

令和元年6月26日(水) 午前10時 議会委員会室

### 出席委員(8名)

(委員長) 矢 倉 強 (副委員長) 門 脇 一 男  
安 達 卓 是 遠 藤 通 岡 田 啓 介 田 村 謙 介  
前 原 茂 又 野 史 朗

### 欠席委員(0名)

### 説明のため出席した者

伊木市長 伊澤副市長

【総合政策部】八幡部長

[地域振興課] 奥田総合政策部次長兼地域振興課長 本干尾担当課長補佐

【参考人】

[中国四国防衛局企画部] 本多部長 有木地方調整課基地対策室長

秋田地方調整課基地対策室長補佐

中谷地方調整課基地対策室基地対策第二係員

[中国四国防衛局美保防衛事務所] 行徳所長 古田次長

[航空自衛隊美保基地監理部渉外室] 酒井室長 大石基地対策専門官

### 出席した事務局職員

先灘局長 長谷川次長 田中主任

### 傍 聴 者

石橋議員 伊藤議員 稲田議員 今城議員 岩崎議員 岡村議員 国頭議員

土光議員 戸田議員 三嶋議員 渡辺議員

報道機関1社 一般5人

### 報告案件

- ・航空自衛隊美保基地における空中給油・輸送機(KC-46A)の整備計画について  
[総合政策部]

~~~~~

### 午前10時00分 開会

○矢倉委員長 ただいまより基地問題等調査特別委員会を開会いたします。

本日は、できるだけ番外議員の番外発言も認めていきたいと思っておりますので、きょうは当局側の方は、答弁される方は手を挙げてください。私が指名しますので、名前を言ってから答弁してください。そして、番外発言される方も同じように挙手してください。私が指名しましたら、名前を言ってから質問をしてください。委員の方はそのまま、いつもどおりで結構でございます。そのように進めさせていただきますので、よろしく願いをいたします。

それでは本題に入ります。本日の案件は、航空自衛隊美保基地における空中給油・輸送

機（KC-46A）の整備計画についてであります。

まず、当局から参考人の方々の御紹介をお願いいたします。名前を言ってから。

○**八幡総合政策部長** 総合政策部長の八幡でございます。

本日は、説明のため中国四国防衛局並びに航空自衛隊美保基地より出席をいただいておりますので、私のほうから御紹介させていただきたいと思っております。

最初に、防衛省中国四国防衛局、本多企画部長様でございます。

○**本多中国四国防衛局企画部長** 本多でございます。よろしくをお願いいたします。

○**八幡総合政策部長** 同じく、地方調整課基地対策室、有木室長様でございます。

○**有木中国四国防衛局企画部地方調整課基地対策室長** 有木です。よろしくをお願いいたします。

○**八幡総合政策部長** 同じく、秋田室長補佐様でございます。

○**秋田中国四国防衛局企画部地方調整課基地対策室長補佐** 秋田でございます。よろしくをお願いいたします。

○**八幡総合政策部長** 中谷基地対策第二係員様でございます。

○**中谷中国四国防衛局企画部地方調整課基地対策室基地対策第二係員** 中谷でございます。よろしくお願ひします。

○**八幡総合政策部長** 続きまして、美保防衛事務所より、行徳所長様でございます。

○**行徳中国四国防衛局美保防衛事務所長** 行徳と申します。よろしくお願ひします。

○**八幡総合政策部長** 同じく、古田次長様でございます。

○**古田中国四国防衛局美保防衛事務所次長** 古田でございます。よろしくお願ひいたします。

○**八幡総合政策部長** 続きまして、航空自衛隊美保基地より、監理部渉外室、酒井室長様でございます。

○**酒井航空自衛隊美保基地監理部渉外室長** 酒井でございます。よろしくお願ひします。

○**八幡総合政策部長** 大石専門官様でございます。

○**大石航空自衛隊美保基地監理部渉外室基地対策専門官** 大石でございます。よろしくお願ひいたします。

○**八幡総合政策部長** 御紹介は以上でございます。

○**矢倉委員長** それでは、当局より本日の案件についての説明を求めます。

奥田地域振興課長。

○**奥田総合政策部次長兼地域振興課長** では、まず執行部のほうから、航空自衛隊美保基地における空中給油・輸送機KC-46Aの配備につきまして、これまでの経過を御説明させていただきます。

空中給油・輸送機KC-46Aの配備の経過については、資料1枚目に記載しておりますとおりでございまして、平成28年9月8日に中国四国防衛局長から鳥取県知事に対しまして事前協議の申し入れがございました。そして、米子市議会全員協議会及び米子飛行場周辺地域振興協議会をそれぞれ3回にわたりまして開催しました。そのほか、平成28年10月には、各地区での住民説明会、またデモフライト及び騒音測定が実施されたところでございます。

本市におきましては、平成28年11月30日付の鳥取県知事から米子市長への意見照

会に対しまして、平成29年2月13日付の米子飛行場周辺地域振興協議会からの配備に同意する意見書を踏まえ、米子市議会の意見を勘案し、平成29年2月27日に、意見を付して同意する回答を鳥取県知事に行ったところでございます。

なお、鳥取県におかれましては、配備に向けた準備を行うことにつきましては了承されておりますが、当時は空中給油・輸送機KC-46Aが開発中の機種であったことから、配備そのものについては同意されておられません。

本日は、防衛省から御説明いただき、航空自衛隊美保基地における空中給油・輸送機KC-46Aの整備計画につきましては、本年3月の27日に中国四国防衛局長から米子市長に対しまして通知があったところございまして、5月の30日には米子飛行場周辺地域振興協議会を開催し、防衛省から説明をしていただいたところでございます。

執行部からは説明は以上でございます。

**○矢倉委員長** それでは、参考人の方々からの説明をお願いいたします。

本多中四国防衛局企画部長さん。

**○本多中国四国防衛局企画部長** 中国四国防衛局企画部長の本多でございます。本日はお忙しい中、貴重なお時間をいただき、まことにありがとうございます。矢倉委員長並びに米子市議会基地問題等調査特別委員会の皆様方におかれましては、常日ごろから防衛省、自衛隊並びに航空自衛隊美保基地の活動に御理解と御協力を賜り、改めて御礼を申し上げます。

昨年12月に閣議決定された、平成31年度以降に係る防衛計画の大綱及び中期防衛力整備計画、平成31年度から令和5年度のうち、美保基地へのKC-46Aの4機追加整備について説明させていただきますので、よろしくお願いたします。

お手元の資料のほうを配付させていただいております、まず資料の1ページ目をごらんください。概要といたしまして、空中給油・輸送機KC-46Aの美保基地の配備については、平成28年の9月、先ほど御説明ありましたとおり鳥取県知事に対し協議を申し入れ、同年9月及び11月米子市議会において3機を整備する計画である旨、説明させていただき、平成30年度までに2機を取得する経費を計上しております。

昨年12月に閣議決定された新たな防衛計画の大綱、中期防衛力整備計画において、太平洋側の広大な空域を含む我が国周辺空域において、戦闘機とその支援機能が一体となって、我が国の防空等総合的な態勢で行い得るよう計画しています。

資料の2ページ目をごらんください。我が国を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増しており、国家間の相互依存関係が一層拡大、深化する一方、パワーバランスの変化が加速化、複雑化し、既存の秩序をめぐる不確実性が増しています。例えば、中国機やロシア機などを対象とした平成30年度における緊急発進回数は約1,000回となり、前年度に比べ約100回増加しており、また資料2ページ目の右側に記載しておりますが、中国軍用機による我が国太平洋側への飛行が急増していることなどが挙げられ、平成29年8月には中国軍の爆撃機が紀伊半島沖まで進出しております。

我が国の防空体制について、過去においては、我が国領空に接近するおそれのある航空機を発見した後、戦闘機を地上から発進させることでこれに対処することが基本的に可能でありましたが、しかしながら、レーダーによる探知が困難な航空機のステルス化や、搭載ミサイルの長射程化が進んだ現在においては、戦闘機をあらかじめ空中に警戒するため

継続的に待機させ、目標発見後、より遠方で直ちにこれを対処し得るよう空中警戒待機の態勢を整えることが、我が国の防空を全うする上で不可欠となっております。

資料の3ページ目をごらんください。このような状況下において、新たな防衛計画の大綱及び中期防衛力整備計画では、日本海側や太平洋側の広大な空域を含む我が国周辺空域における防空態勢の充実等のため、取り組みを進めることになりました。航空自衛隊においては、戦闘機部隊の強化や、戦闘機部隊が能力を発揮できるよう支援機能を整備することとされ、我が国防衛力の空中給油・輸送機能を強化するため、KC-46Aを4機整備することが決定されました。

資料の1ページ目にお戻りいただきまして、美保基地に配備する理由でございます。防衛省、自衛隊としては、新たな防衛計画の大綱及び中期防衛力整備計画を着実に実施するため、全国において任務を全うするに当たり、必要な機数を精査し総合的に勘案した結果、美保基地において配備を計画しているKC-46A2機では不足しており、新たに4機を整備する必要があると考えております。また、美保基地は地積や地理的等の観点から総合的に検討、評価を行った結果、KC-46Aの配備基地として適していると考えております。

導入時期等につきまして、資料の4ページ目をあわせてごらんください。これまでに予算を獲得し、米国政府と契約が完了している2機のKC-46Aのうち、初号機については令和2年度における納入を、2号機目につきましては令和3年度に予定しております。

中期防衛力整備計画で決定されたKC-46Aの4機追加整備については、地元自治体や議会の皆様から御理解と御協力を得ることが前提となりますが、いまだ計画段階であり、導入時期等は未定でございます。当局といたしましては、今後情報が入り次第、速やかに関係自治体や議会の皆様方に説明させていただきます。また、KC-46Aの4機追加整備に伴う必要な関連施設整備についても、現在実施している工事に継続して実施する考えでございます。

最後になりますけども、航空自衛隊美保基地における空中給油・輸送機KC-46Aの配備について、平成28年9月、当局から鳥取県知事に対し協議を申し入れ、平成29年3月、知事から配備に向けた準備を行うことについて了承をいただきましたので、今後、空中給油・輸送機KC-46Aの配備計画が具体化した際、当局から改めて配備に係る再協議の申し入れを予定しているところでございます。4機の追加整備を含むKC-46Aの配備について、防衛省といたしましては、地元の御理解を得るべく方策を尽くしていく所存でございますので、引き続き御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

とりあえず、当局からの説明は以上でございます。

**○矢倉委員長** 以上で説明は終わりました。

これより質疑に入ります。委員の皆さんの発言を許します。

安達委員。

**○安達委員** 今、説明があったんですけども、きのうは県知事のほうに説明されたというような記事がきょう新聞に載ったんですが、それはそれとしてですね、何点か確認やら質問をさせてもらいますが、今回の説明の中であったのですが、1個飛行隊が2個飛行隊となるというふうな説明があったように思うんですが、資料の中ですね、この1個飛

行隊から2個飛行隊に、いわゆる配備計画が、何ていうんですか、増機に係ってですね、個隊、いわゆる飛行隊がふえる、飛行隊が大きくなるというのは規模はどんなことを示しているか、情報をいただけませんか。3ページですね、空中給油機。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 企画部長の本多でございます。

1個飛行隊が2個飛行隊という、まず飛行隊が1個ふえるという御説明ですけれども、現在のKC-767という飛行隊を小牧に保有しております。それとは別に美保にKC-46Aの飛行隊ができるという意味で、1個飛行隊から2個飛行隊になるということでございます。

今回の美保基地にできる1個飛行隊の関係で、どれだけのその隊員がふえるかというのは現時点でまだちょっと明確にお示しすることはできませんけれども、参考といたしまして、小牧基地においてKC-767を4機配備した時点で、約150名の隊員を配置していると、これは参考でございますけれども、というところをちょっと御紹介させていただきたいと思っております。

○矢倉委員長 安達委員。

○安達委員 飛行隊がそのように、増員というんですか、隊員がふえるというふうに、参考だという条件つきだったんですけれども。それと、計画でそれぞれありますが、整備っていうくくりで燃料施設を順次整備されますよね。これは、もう既に工事着手しておられるのか、今後予定をしておられるのか、そこをもう少し詳しく、4ページの資料をもとに説明いただけますか。

○安達委員 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 企画部長の本多でございます。

30年度において工事に、発注というんですか、契約を結んだものが既にご覧いただけますので、この線表のとおり、着手はさせていただいてるということでございます。

○矢倉委員長 安達委員。

○安達委員 いわゆる設備をきちんと、格納庫とかも含めてですね、増機されるわけですから、ここをきちんと、何ていうんですか、普通だったら車でしたら、整備工場、車をふやせば整備をしなきゃいけないですね。ですから、機材もそういうことで設備も拡充されなけんかなと思うんですが、もともとこのKC-46Aは、2年前ですか、説明があったときには、もともとのこのメーカーは、旅客機をつくった、旅客機仕様のものを加工して、加工という言葉が使っているのかどうかわかりませんが、タンク仕様にして飛ばせますよというようなことで説明があったように思うんですが、それは再確認ですが、そのことでよろしいでしょうか。旅客機仕様をタンクに変えた。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 今のKC-46Aのもともとといいますか、これはもともとは、今御案内のとおりボーイング767という民航機を改修母機といたしまして、それに空中給油機能ですね、フライングブームですか、プローブアンドドローグといった装置を付加して、空中給油・輸送機としての機能を持たせるようなものに改造といいますか、したという形のものでございます。

○矢倉委員長 安達委員。

**○安達委員** 追加で、済みません。それで、そのようにタンクを空に飛ばせて、空で給油するという機能をこれから増機して、基地強化というふうにとるんですけども、今では美保は輸送隊とか教育隊が主だったんですけども、C-1、C-2もあって、輸送隊からこういう機能を変更しようとする、そうとってるわけですけども、例えばT-400とかCH-47、ヘリもありますけれども、全体的に増、いわゆる配備が機材としてもふえるというふうにとるんですけども、まずT-400は今は配備されてますけれども、今後このT-400はどうなるのか、それからCH-47はどうなるかを関連して教えてください。

**○矢倉委員長** 本多企画部長。

**○本多中国四国防衛局企画部長** 企画部長の本多でございます。

もともとそのKC-46A自体は空中給油・輸送機ということで、中にタンクがあって油等も積めますし、輸送機としての機能もあるということでございます。他方で、その空中給油訓練につきましては、当然、戦闘機部隊などと一緒にやるということになりまして、空中給油訓練は基本的に今後のその運用ですけども、戦闘機部隊のあるところの基地の近隣の空域で行われるというふうに我々は考えております。そういう意味では、特に美保基地の機能は、これまでと何か一変するような装備であるというふうには我々は考えておりません。

かつ、T-400、CH-47の今後の動きということでございますけど、まず陸上自衛隊のCH-47につきましては、現段階で美保から移駐というような計画ございません。T-400につきましては、現段階におきまして、資料の4ページ目に記載させておりますけども、令和2年度におきまして約10機といいますか、T-400自体は浜松のほうに移動予定ということで、現在計画されているところでございます。

**○矢倉委員長** 安達委員。

**○安達委員** CH-47の配備計画、予定も含めて、これはもう完了ですか。

**○本多中国四国防衛局企画部長** 完了……。

**○安達委員** 配備計画は、もう予定は終わって、計画どおり終わって、もう増機はない。

**○矢倉委員長** 本多企画部長。

**○本多中国四国防衛局企画部長** 資料の4ページ目の配備計画におきましては、現段階で決まっているのは4機で、追加の2機についてはまだ未定ということでございます。

**○矢倉委員長** 安達委員。

**○安達委員** 最後にします。いろいろ配備計画を確認させてもらったんですけども、きのうの知事も言われたと思うんですけども、新聞記事でしか読み取れませんけれども、美保基地の機能が随分変わっていくということと、変わるたびに事前に地元で事前協議なりをして、同意を得てこれこれですということにならにゃいけんなどと思いつつ、計画ですから突然示されることもあろうかと思っておりますけれども、その短さを我々地元は感ずるわけですね。計画です計画ですって言われつつ、極端な話、二、三日したら配備しますとかっていう通知をいただいたりする。そのことを、もう少し地元を大切に受けってもらって、計画を事前にできるところから示していただきたい、そして同意を得てもらいたい。

何が言いたいかっていうと、今までの機能が随分変わってきて、機能が強化されるじゃないかと思うたびに、機材もふえると、ボルト1つでも落ちたら報告されますよね。C-

2でもC-1でもそうだったんですが。そういうことを心配するところで、安全性をどこまで担保してくれるか、そこが基地にかかわる防衛省の局の方に受けとめてもらいたいという思いでありますので、そこはしっかり説明を果たしていただきたいです。以上です。

**○矢倉委員長** ほかにございませんか。

又野委員。

**○又野委員** 今回の機数の変更の理由で、まず概要のところ、平成30年の12月に新たな防衛計画の大綱、中期防衛力整備計画においてと書いてあって、その計画を着実に実施するため新たに4機を整備する必要があると、実際ふえるのは3機なんですけれども、もとの計画からは、必要があると考えておりますということなんですけれども、先ほどの説明で、周辺の状況とか最近の状況とか話をされています。そこら辺で、3機から6機ということは倍増するわけですね。その倍増までするっていう理由がちよっとはっきりとわかんないんですけれども、なぜ6機じゃないといけないのかっていうところは何かありますか。

**○矢倉委員長** 本多企画部長。

**○本多中国四国防衛局企画部長** 先ほども冒頭で御説明させていただきましたとおり、これまでは我が国に接近する航空機があれば、地上スクランブルですね、地上から発進させて、そちらのほうに向かわせるということで対処してたんですけども、なかなか、先ほどありました太平洋側からも来るとか、そういった状況の中で、基本的にあらかじめ戦闘機を待機させておいて向かわせる、より遠方で捕捉するために必要になるという中で、全国北から南、北は千歳から南の那覇まで戦闘機の部隊があります。そういった部隊と密接な訓練をやるという関係で、それぞれ全国津々浦々の空域で訓練を行う関係上、やはりある程度の機数が必要になるというようなこと等を勘案して、小牧基地の状況ですとか美保基地の状況等を踏まえ、現段階において4機ですか、計6機で、態勢が必要だという判断をしたということでございます。

**○矢倉委員長** 又野委員。

**○又野委員** 最初の3機の計画のときは、全体で対応するっていう話じゃなかったんですかね。何か最初のときも、対応は、全体を対応できるためというような話だったと思うんですけど、違いましたか。

**○矢倉委員長** 本多企画部長。

**○本多中国四国防衛局企画部長** 御案内のとおり、特に空中給油に関していえば、戦闘機部隊等の関係の訓練が必要になりますので、当然全国を前提としたことで当初御説明したと思います。

今回、さらに、より機数がふえて、より戦闘機部隊との練度向上のため必要な訓練の回数をふやせるというようなこと等を総合的に勘案した結果、6機が必要だという認識に至ったというふうに御理解賜ればと思います。

**○矢倉委員長** 又野委員。

**○又野委員** ちょっと6機だっていう理由はなかなかそれでは読み取れないですけども、ちなみにアメリカ軍との共同訓練とかっていうのは、これは、想定とかはされてるんでしょうかね、ふえたことの理由として。

**○矢倉委員長** 本多企画部長。

**○本多中国四国防衛局企画部長** 想定されたというところはちょっとあれですけど、現在もKC-767というのを持ってまして、そういった中で訓練は行われておりますので、その延長でといいますか、否定はするものではないと思っておりますけども。

**○矢倉委員長** 又野委員。

**○又野委員** 否定はされないということだと、恐らく可能性は十分あるんだなと認識しました。

先ほど安達委員からもありましたけれども、これまでの経過のところでもあるんですけども、平成29年3月29日付の鳥取県知事から防衛局長宛てに回答のありました航空自衛隊美保基地における空中給油・輸送機KC-46Aの配備について回答というのは恐らくお持ちだとは思いますが、この中に、先ほどありました配備に向けた準備を行うことについては了承しますということが書いてありまして、実配備前に十分な時間的余裕を持って配備計画について協議を行い、同意を得てくださってというふうにも書いてあると思います。記として6のところには、機数変更等行う場合は速やかな情報提供と事前協議を行うことともあります。3機の計画から6機の計画になるということは、配備計画の大きな変更だと思われれます。先日の米子市議会の一般質問でも、遠藤議員の質問に対して米子市のほうが、今回の機数変更は重要な変更だと考えているというふうにも答弁しておられます。配備計画について協議を行い、同意を得てくださって鳥取県知事のほうから回答があったわけですね。今回の配備計画の変更は大きな変更だと思うんですけども、米子市や米子市議会の同意は必要じゃないかと考えるんですけども、同意を求めるといふことはされないのでしょうか。

**○矢倉委員長** 本多企画部長。

**○本多中国四国防衛局企画部長** なかなかあれなんですけども、まず、鳥取県知事のとの間でいえばまさにそういうことでございまして、配備については、準備については御了承いただいているけども、配備そのものについてはまだ御理解いただけてないということで、今後の配備計画について具体的になりましたので、そこは鳥取県知事のほうに対して再協議を申し入れたいなというふうには考えている、配備についてですね、ところがございます。

他方でその機数の変更については、当方の認識としましては、事前協議の対象になるかということでは、対象にはならないのかなというふうに認識しておりますが、当然その周辺住民の方々の御理解を得ることが必要であると考えておりますので、事前にこういった丁寧な説明はさせていただきたいというふうに考えております。

**○矢倉委員長** 又野委員。

**○又野委員** 済みません。そうすると、米子市の当局のほうに聞きたいと思うんですけども、これは議会に諮るといふようなことは考えておられないですか。

**○矢倉委員長** 八幡総合政策部長。

**○八幡総合政策部長** この件についてでございますが、まず、先ほどの又野委員のおっしゃられた、私どもが事前協議についてお話しさせた件について少し補足をさせていただきたいと思いますが、私どもといたしましても、基本的には使用機種を変更する場合は事前協議だという認識はあるんですが、今回については、今、本多部長さんが言われたように、まだそのところの認識というのは持っておりませんが、基地の運用等に係る重要な変更

であるということで、既に防衛省のほうからもそれに準じた形で進めていただいているというふうに理解をしております。

それで先ほどの質問の、既に私どもについては、まず、一旦、直接防衛省さんから照会来るわけではなくて、先ほど本多部長さんの御説明にありましたように、まず県のほうからそれぞれ市町村に対してそういう照会が来るということで、最初の照会については、県のほうは事前の準備は了解をしたということですが、私どもといたしましては、これは既に議会において報告させていただいたと思いますが、平成28年に照会があったことについては、地元のいわゆる振興協議会の皆さんにも了解を得ているという前提で、それとあと市議会の御意見というのを勘案して、同意しますという既に同意はしております。

今回、機種がふえたことに対しても同意をするかというお尋ねでございますが、現時点におきましては、地元の振興協議会の皆さんにつきましては、おおむね理解はしたということで、総会でいわゆる確認をいただいております。

私どもにつきましては、まず県のほうからそういう照会がない時点で、いわゆる回答のしようもないわけでございますので、現時点におきましては、既にこの件については今は同意の回答をさせていただいている、そういう状況でございます。

**○矢倉委員長** 又野委員。

**○又野委員** そうしますと、県の対応を見るというようなところだとは思いますが、今回、私としては、やはり米子市議会での答弁にあったように、当局としてもなんですけれども、重要な変更であることは間違いないと思うんです。そうすると、市民への情報提供というの、まだまだ全然足りないんじゃないかなと、倍にふえるってことをやはり市民の皆さんは非常に懸念されるんじゃないかなと思うんですけれども、米子飛行場周辺地域振興協議会への説明だけじゃなくて、住民説明会、当初の配備計画の説明でもされたと思うんですけれども、そのような住民説明会とかをされる考えはないんですかね。

**○矢倉委員長** 本多企画部長。

**○本多中国四国防衛局企画部長** 企画部長の本多でございます。

当初、すぐいう形で説明会等させていただいたということももちろんございますけども、それにつきましては、また米子市、行政当局と御相談させていただきながら対応を決めたいと思っております。

**○矢倉委員長** 又野委員。

**○又野委員** そうしたら、当局としてはどのような。

**○矢倉委員長** 八幡総合政策部長。

**○八幡総合政策部長** この件につきましては、まず地元の周辺振興協議会の皆様方と協議をさせていただきました。それで、一応本市におきましては、あくまでも現時点でございますけども、やはり住民説明というよりは、しっかりと振興協議会のほうで説明をしていくということでございましたし、その意向を私どもは尊重させていただいたということでございます。

**○矢倉委員長** 又野委員。

**○又野委員** ただ、十分市民へ伝わっているかどうかって言われると、まだまだ不十分だと思いますので、本当に丁寧にするということであれば、前回と同じように住民説明会もするべきだと考えておりますので、強くこれは要望したいと思っております。

それと、3機から6機にふえる理由の中で、3ページの右の上のところに、①の戦闘機部隊の強化ということで、航空優勢を獲得・維持できるよう、戦闘機部隊の質・量を確保しますということで、戦闘機部隊がふえると。そうなってくると恐らく空中給油機もふやすような話になってくるんじゃないかなと思うんですけども、ただ、これを認めると軍拡競争にもつながっていくんじゃないかなと思って、非常に懸念をしております。

アメリカ軍の沖縄での空中給油訓練中の墜落事故、まだ記憶に新しいところだとは思いますが、この近くの美保基地で空中給油機が3機から6機にふえるということは、基地周辺の危険も高まること、これに当然つながると考えます。このような計画を進めるべきではないということを最後に申し上げて、終わります。以上です。

**○矢倉委員長** ほかにございませんか。

遠藤委員。

**○遠藤委員** 委員長、きょうはね、時間があと1時間、午前中もあと1時間ほどしかないもんで、米子市等の対応等について米子市議会がどうするかという問題は、後日改めて委員会を開催を求めておきたいと、こういうふうにして、まず議論の整理をさせていただきます。

そこで、きょうは防衛省からお越しいただいておるんで、防衛省を中心にした考え方っていうものをお聞きしたいと思います。

最初に、これは安達委員からも冒頭にあったけども、きょうの新聞に知事と防衛局長が、きのうですか、県庁で会議をされてらっしゃいますね、協議を。その記事を見ると、内容はわかりませんが、記事だけで判断します。記事を読みますと、平井知事は、なぜ地元への説明に時間がかかってるのか理解に苦しむと、こういう苦言を呈したという、一つが書いてあった。もう一つは、安全性、騒音の検証や民間航空への配慮を条件に反論を留保していることを改めて表明した、こう書いてありますよね。これはどういうふうにとめればいいんですか。

**○矢倉委員長** 本多企画部長。

**○本多中国四国防衛局企画部長** 先ほど委員から御案内のとおり、きのうですね、鳥取県知事に対しまして赤瀬中国四国防衛局長のほうから、基本的には本日、私のほうから委員会のほうに説明させていただいた内容と同一の内容を鳥取県知事のほうに御説明させていただきました。

知事のほうからは、昨年12月の防衛計画の大綱、中期防衛計画策定から3月の通知だったということで、大分時間、情報開示がおくれたということに関して、そういったちょっと苦言を呈されたということでございます。

他方で、今、鳥取県知事の立場として、先ほど別途、委員からございましたように、立場として、準備のための施設整備については了承しているけれども、配備そのものについてはまだ留保しているということを改めて知事のほうから御発言いただいたという認識でございますので、我々としては再協議を改めて今後お願いしたいということで、当局の局長のほうから回答させていただいたという内容でございます。

**○矢倉委員長** 遠藤委員。

**○遠藤委員** うがった見方をするとですね、知事が早く同意したんだから、配備せよと、こういうことを言ってるのかなというふうにも受け取れる。何をもちもたしてるんだとい

うようなことにも受けとめられるし、この記事は。それからもう一つは、安全性や騒音の検証、民間航空への配慮を条件だとしてるけど、それが示していないじゃないかという苦言にもなってるんじゃないかと受けとめるんですが、それはないですか。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 企画部長の本多でございます。

ちょっと済みません、記事につきましては記者さんのあれなんで、我々としては、当局の受けとめとしましては、繰り返しになりますけども、配備についての御了解といいますか、了承につきましては、鳥取県知事のほうはまだ留保されているという認識でございますので、改めて再協議を申し入れて、承認なり了解なりいただくような形で検討、協議したいというふうには考えております。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 直接参加されていなかったということで、内容がわかりにくいという御返事だろうと思うんですけど、それでいいんですか。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 済みません。記事の取り上げ方がちょっとあれなので、確かに私もちょっとその場には居合わせておりませんが、居合わせた者からの報告ということで聞いてることで、今お答えさせていただいております。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 それでね、いろいろとお聞きしたいことがあるんですけども、1つは、先ほど増機について、つまり機種についての事前協議は行うことになってるけども、一旦入れた機種がふえることに対しては事前協議の対象にしてないと、こういうような捉え方をしとらっしゃいますけど、それはそのとおりですか。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 今回でいえば、機数の変更についてはそういう協議の対象、原則的にはしておりませんが、丁寧な説明を求められる我々としてはそれを、公務とすることを怠るつもりはございません。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 米子市と防衛省が基地協定を結んでいることは御存じですか。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 はい。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 御存じであれば、その中にはどういうことが示してありますか。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 中国四国防衛局企画部長の本多でございます。

昭和54年1月26日の閣議了解における協定書でという認識でございますでしょうか。

○遠藤委員 1月31日のですよ。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 1月31日、当時の防衛施設庁長官、鳥取県知事、米子市長、境港市長との協定書というのは、ありますけども。

○遠藤委員 どう書いてありますか。どのように理解されてらっしゃいますか。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 美保飛行場周辺における生活環境の整備、地域振興等についての確認事項というふうに認識しております。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 私が前段で聞いたのは、増機、機種は一点に決めて事前協議するけども、その後ふやすことについては事前協議対象にしないとおっしゃったことについて、その協定書の中身はどう理解されていますかということを知っています。

その中の10項に、閣議了解及びこの協定書に定める事項に関し疑義が生じたとき、甲乙それぞれが協議をすると、こういう文が載っていますよね、実際ね。このことを考えると、単に事前協議という言葉は載っていないという、文章上はありますけども、甲乙疑義が生じたときには、閣議了解以降に、協議いたしますよと、こういうことが協定の中に定められていることでは。そうすると、事前協議の対象ではありませんと言い切れるのかどうなのかということを知りたいです。事前協議という言葉の意味ではないということになるかもしれないけども、しかし疑義が生じた場合、米子市がちょっと待ったと、こうやって意見を出したときには、あるいは県知事を含めて、防衛省はある意味で事前に協議しなきゃならない。事が運ぶ前に協議しなきゃならない。こういうことになるんじゃないですか。私はこの協定の精神を、二、三年前だったかな、防衛省の本省に確認しました。この協定は今でも生きてますかと。そしたら、今でも生きておりますと。したがって、米子市の、この庁舎の上も騒音区域ですと。だけど、当時のようなお金を出すわけにはいきませんがという御説明を受けました。つまり、この協定が生きてるということになれば、この10項目に書かれたこと自身も、私は、防衛省として、広島の方であろうと美保基地の方であろうと、これはやっぱり米子市に対してはきちんと協議を、疑義が生じて協議を申し込んだら応じていただくということの上で物事をとり行ってほしい。これが協定の精神だと思いますね。それは御理解いただけますか。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 10項、当然、我々も今、防衛省を担っておりますけども、この協議、協定書の当事者として、この協定は重く尊重しておりますし、そういった10項についても、そういった疑義が生じたときは真摯に取り組みたいと思っておりますが、当局の理解としては、疑義というか、米子市との間でそういったものがないというふうには認識しております。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 今、生じているかしてないか別にして、これからの問題ですからね。これからの問題ですから。今は、問題を、指摘を受けておりませんということの内容かもしれませんが、これからは、きょう以降はあるいは出てくるかもしれないですね。そうすると、前段のおっしゃったように、ふえたからといって事前協議の対象になりませんということでは逃げられない、防衛省としては。異議が出てきたら、それは、まあ伊木市長ですけども、異議が出てきたらやっぱり協議応じなきゃならない。こういう姿勢には変わらないということでしょう、事前に協議するという、言葉と意味は違うけども。この協定の精神からいうとそういうことは起こり得るということでしょう、やらないといけないということでしょう、双方で協議を。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 まず、この協定書につきましては、繰り返しになりますけども、当時の施設庁ですけど、防衛省として、今、引き続き、当然当事者としてこの協定書については尊重しますし、10項についてもそういった場合が今後もし生じることがあれば、それは真摯に対応したいというところは当然でございます。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 少し角度が違いますけども、この空中給油機KC-767っていうのは小牧に配備されてますよね。ここは増機にはならないんですか。この美保基地はふやすけども、この小牧の場合はふやさないということですか。そこもふえるんですか。空中給油機。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 今回、中期防衛力整備計画において、4機を、KC-46Aを追加整備しますけども、小牧のほうではなく、美保のほうにということでございます。小牧の異動は特にございませぬ。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 この説明の中で、ふやすことも含めてKC-46Aの配備基地としては適してるものと考えと、こう説明に書いてあります。美保基地がKC-46Aの配備に適してるということは、どういうことをもって適しているというふうに解釈されていますか。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 まず、地積が確保できるということ。あと、運用上、やはり北から南への展開しやすい位置にあるというようなところから、総合的に勘案して美保が適しているという判断をしたということでございます。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 つまり、全国展開するには最もいい位置に適してるという解釈にもつながりますが、そう理解してよろしいですか。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 はい。かつ、まず地積があって、そういう運用、展開がしやすい位置にあるということ等でございます。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 つまり、少し具体的な中身にちょっとお聞きしますけども、3機から6機にふえる。今は確定はしてないということは置いといたとしてもですよ、実際にこの訓練が美保基地の段階でどのように、訓練というか、実践訓練なのか教育訓練なのかわかりませんが、どのように日常、行動をされるというか、飛行機が動くんですか、この飛行機が、空中空域は。3機の場合と6機の場合とは動き方が違うんですか。あるいは3機はどのようなふうに動かしていかれて、6機の場合にはどのようなふうに動いていくんですか。この辺の内容がちょっとつかみにくいんですけど。3機だけでも、6機もあっても同じ動きなのか、その違いが出てくるのか。その辺について説明いただけますか。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 具体的な飛行時間とか飛行範囲については、なかなか、済みません、部隊運営上の能力を明らかにするということから、ちょっとお答えは差し控えさせていただきますなと思いますけれども。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 軍の機密事項にかかわるといふことであればお聞きするわけにはいきませんが、ただ、なぜそれを聞いたかと言いますと、C-2が配備されてからの騒音測定、これ今までは特定の地域しかしておられませんでしたけど、C-1の時代は。今度はC-2が入ってから、議会のほうからも言ったことを受けとめていただいて、拡大されて騒音調査されたところで、その結果出されました。完全なものではないというものもありますけども、C-1のときよりもC-2の方が非常に騒音区域が拡大してるという結果が見えるように私は判断しますが、どのような御認識ですか。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 航空機単体でいえば、我々としてはC-1よりはC-2のほうが騒音は低いという認識をしております。具体的に今回のKC-46Aについても、先ほどありましたとおり、ボーイング767の改造機といいますか、と同型のエンジンを搭載しておりますので、ボーイング767と同程度でございまして、そうですね、国際航空機関等による騒音レベルでいっても、C-1よりは低い、かつC-2と同程度か若干高目というようなことをちょっと想定しております、航空機単体でですね。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 単体という説明なんですけども、我々が当局からいただいた騒音測定調査、その結果を見ますと、C-1よりもC-2のほうが、特に私が居住してる加茂公民館の上空は高くなっているんです。なぜこういうことを聞いているかと言いますと、単体でいくと低いですからC-1よりも音は小さいですよという宣伝があるけども、生活実感というのは、この数値があらわしてるんですね。私の家の上空に本体が丸見えでブーンと飛ぶんですよ、夕方と朝。今までは全くなかったんです。悪いけど、大篠津近辺に住んでる人と同じ状況を感じる。その飛行コースというものが変わったということもあるでしょうし、ふえたかもしれん。つまり、そういうことも考えてみたときに、今おっしゃったように、C-1よりも少ないですよというようなことは、地域の生活者から見ると、その感覚は読み取れないんですよ。もう少し申し上げたいのは、やっぱりこの騒音測定というのを正確に、これからは範囲をもう少し拡大してもらって、こういう状態っていうのは、常時やっていただきたいと、騒音測定を。米子市が言ってから、できればやってあげるわいという今までの対応でなしに、防衛省としても今言った状況が地域に散在してる、いわゆる拡散している、そういう飛行コースに合わせたその直下の地域は騒音測定をきちんと、年間の中で定期的にやっていただくと、こういうことを僕は約束してもらいたいと思うんですけど。そういうお考えはないですか。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 企画部長、本多でございまして。

騒音測定等につきましては、現在、とりあえず今、態勢をやっております。それについては、引き続きしっかりと継続的に実施していきたいというふうには考えております。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 自主的にやっていかれる、そうすると測定地はどこにどうするかという算段ですね、米子市と協議していただいて、今のままでいいのか、もっとやっぱり測定地を新たに加えなきゃいけないのか、こういう検討が僕は必要だと思っています。飛行コースが

変わっていませんか。C-1のときよりも、C-2は。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 特に変更はしておりません。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 そうじゃないという御返事のようにですけどね、生活実感してる地域に住んでる私から見ると、C-1が飛んだときの飛行高度といたしますか、そのときとC-2が飛んでる飛行の高度、全然違いますよ。その上に、コースが今まではなかったコースだと思います。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 コースの変更、高度の変更等はありません。変わっておりません。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 そういうふうにおっしゃるかもしれませんが、実感として私はそういうものを散見しております、毎日見ております。だけん、もう一度、飛行物体を写真で撮って測定してみればわかるかもしれない。だけど、実態がそういうことなんです。そういう意味で、地域では騒音の新たな被害というか、そういうものを生活の中で受けとめる地域がふえてきとる住民もおるということを十分に受けとめといていただきたい、こう思いますね。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 平成29年に、当時の野坂市長、伊木市長になられてからも同じものが出とるかどうか、ちょっと資料がなくて使いにくいんで、29年の2月の段階ですね、飛行場周辺地域振興協議会の会長、武良さん、この方が出してる米子市長に対する意見書。それから、これは案という判が入ってるけども、同様な時期だと思うけども、野坂市長が平井知事に出したKC-46Aの配備についての回答の案の中で、4つの項目が提起されていますね。その中で、生活環境の悪化を防ぐため、騒音の軽減について適切な対策を行うこと、これは市長が知事に出してる言葉ですけども。それから2点目、もう一つの点として、地域振興策と生活環境整備を円滑かつ強力に推進するため十分な措置を行うこと、この2と3項目が出ておるんですけど、これは防衛省に対しても同じように出てると思うんですが、間違いはないですか。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長（参考人） 29年の3月29日に鳥取県知事のほうから防衛局長に対して提出されてるという認識でございます。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 これに対して、防衛省はどのような回答をされておるとお思いますか。米子市は見てますか、回答を。

○矢倉委員長 八幡総合政策部長。

○八幡総合政策部長 私のほうで、もういただいておりますので、今、遠藤委員さんが言われたのは、知事に対する防衛局長さんの回答でよろしいでしょうか。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 そういう資料は議会に出したことあるか。

○矢倉委員長 八幡総合政策部長。

○八幡総合政策部長 今、出させていただいているというふうに認識はしております。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 僕は資料の提出を委員長を通じて求めておきます。

それで、防衛省さんにお聞きしますけども、この2と3の具体的な中身っていうのは、どのように我々は受けとめたらいいんでしょうか。例えば、騒音を軽減について適切に対策を行うと。これに対してはどういうふうなお考えを回答されたとお考えですか。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 項目の2と3についてということでしたので、回答書の回答を読ませていただきます。まず2についてでございますけども、自衛隊航空機の安全運航等については、従来から万全を期しているところであるが、今後とも空中給油・輸送機も含めて万全を期す所存であり、地域住民の安全確保に努めてまいりたいと。

3でございます。3について、美保基地では、これまで早朝、夜間の自粛等可能な限り騒音の軽減に努めたきたところであるが、KC-46A配備後においても、早朝、夜間の離着陸をできる限り控える。長時間にわたる上空待機をしない等、各種取り組みにより航空機の騒音を可能な限り軽減し、飛行場周辺的生活環境に支障を来さないよう努力してまいりたいということでございます。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 つまり、そういう文章を書いとうなっておるんですけども、今、先ほど前段で私が申し上げましたように、私の周囲周辺を含めて、今までになかった騒音の状況を感じる状態になってるわけですね。けども、騒音値とか見たときには、それ以上の騒音値を下げるという工夫はできないということになっていくわけですか。それとも、その騒音値をもっと下げる方法でもあるということなんでしょうか。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 今後、まだ現時点でKC-46A自体を配備されておられませんけど、もし仮に今後、配備になった段階では、例えば騒音測定等を実施して、把握して、そういったまず原因の究明ですとか、そういったものを努めてまいりたいというふうには考えておりますけども。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 もう一つは、3番目の問題ですけどね。かつてはこの基地協定にも示されているように、過去、いろんな状況の変化の中で、言葉をかえると危険手当、その地域に対する、米子市に対する、そういうものを防衛省は協議してお答えになってきたと思うんですね。私は、この地域振興策、生活環境整備、こういう言葉の中でつながっていますけども、今、防衛省自身としては、新たにこういうKC-46Aが増機されていく、あるいは大型ヘリコプターも配置していく、こういう状況の中で、こういう地域振興策や生活環境整備に向けて、過去とって行われてきた危険手当、こういうものに対してはどのように配慮されるお考えですか。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 ちょっとその危険手当というあれは、委員のあれなんです。我々としては当然、美保基地周辺的生活環境の整備等について、いろいろお手伝い

させていただいております。これからも美保基地に係る航空機騒音等の実態を踏まえ、米子市の事業計画も具体的にお伺いしながら、防衛施設周辺的生活環境の整備等に関する法律に基づきまして、助成等に努めてまいりたいというふうには考えておりますけども。

**○矢倉委員長** 遠藤委員。

**○遠藤委員** それは、伊木市長がどういうふうに対応されるか、まだ姿が見えませんが、一通り事前にお聞きをしたところですけども、過去の、やっぱり基地協定の精神を確認させていただいた中で、今でもそれは生きてるという確認をいただいたわけですが、今後これらについても同様に、ぜひ前向きに捉えていただくということが大事じゃないかということをお私に申し上げておきたいというふうに思います。

**○矢倉委員長** 遠藤委員。

**○遠藤委員** それからもう一つ、基地の機能の問題です。いわゆる、教育訓練隊という今までの美保基地の状態というふうに私たちは受けとめてる。あくまでも今までの基地は、いわゆるC-1の教育訓練隊だというような認識でおったんですね。今回のこの空中給油機の配備に伴って、いわゆる戦闘能力を高めるための支援をするための部隊が変わっていくと、こういうふうに書かれているんですけども、これは明らかに基地の機能が転換をしているというふうに私は受けとめるんですけど、従来の基地の機能と変わらないというふうな見解なんですか。教育訓練隊から、いわゆる防衛の整備に対して、後方支援じゃないけども、支援体制、支援機能の整備ということは、軍備に対する、今までの教育訓練隊の基地の機能とは違ってくるんじゃないかという気がするんですけど、それは違うんですか。

**○矢倉委員長** 本多企画部長。

**○本多中国四国防衛局企画部長** 本多でございます。

ちょっと、これまでもC-2輸送機ということで、輸送機能というのは我々としては美保基地のほうにあったというふうに認識しております、教育訓練だけでなく。KC-46Aについても、空中給油機能と輸送機能という2つの機能がございまして、ですから、いずれにせよKC-46Aを配備しても、美保基地の輸送機、輸送部隊の母基地という位置づけについて変化があるというふうには考えておりません。

**○矢倉委員長** 遠藤委員。

**○遠藤委員** 令和2年でしたかね、教育訓練隊が浜松に移動するだかという報告を受けておるんですけども、今おっしゃったのは、まだ教育訓練隊が残ってるからそういうような話にもつながってるかと思うんですけど、これはごっそり浜松に行きちゃって、C-2と大型ヘリと空中給油機ということになっちゃうと、根本的に基地の、今まで備わってた状態というか、大きな変化を起こしてくるというふうに見るんですけど、それは変わらないという御見解ですか。

**○矢倉委員長** 本多企画部長。

**○本多中国四国防衛局企画部長** どちらかという、騒音の軽減といった、そういったものにも我々としては配慮したというつमोरの、計画もというか、そういう認識もございませぬし、基本的には輸送機部隊の基地というような機能がついて変更があったというふうには認識しておりませぬ。

**○矢倉委員長** 遠藤委員。

**○遠藤委員** これは、僕は大きな問題だと思うんですね。だから、今、どういう意味でそ

ういう説明されるかわかりませんが、教育訓練隊というものが米子から完全に他の基地に移動しちゃって、問題は教育訓練隊の部隊を中心にした基地に変わるということは、ここには文章で表現されてるんですけども、戦闘能力ですね、それ自身に対する支援機能を強化するということになってくると、これ全く過去の美保基地とは違ってくるんじゃないかと、誰が見てもそう思うんですよね。そうではないと言い切られますか。これは国会の防衛に聞きに行きませんから、ここではお答えができないかもしれませんが。僕は、これは違うなら違うというきちんとした説明をやっぱりしていただきたいと思うんですよ。過去の教育訓練隊の部隊が100%の時代と、今度はそれが全く移動して、教育訓練はなくなって、C-2の部隊と、それと空中給油機と大型ヘリコプターと、こういうものになるときは、過去の基地の状態とは違いますよという、これはきちんと説明できなきゃいけないと思うんです。それを同じだという理解は、教育訓練隊と同じだというような理解はちょっとしにくいですけど、どう考えても。

**○矢倉委員長** 本多企画部長。

**○本多中国四国防衛局企画部長** 本多でございます。

済みません。輸送部隊の母基地としての機能も、これまでC-1、C-2等の配備時から当然そういった機能は保持して、かつT-400に関する教育訓練施設という2つの機能があったという中で、今回、KC-46Aについては輸送機部隊の補填というか補完ということになります。他方で、教育部隊が抜けるということに関しては、地元の負担軽減という言い方はちょっとどうかと思いますけども、我々的には、騒音とか機数に関しては地元の負担を軽減する方向だというふうには認識しておりますけども。もともと輸送機能を持った基地であるということに関しては変わらないというふうに認識しております。

**○矢倉委員長** 遠藤委員。

**○遠藤委員** 今までよりも、沖縄の例を出すまでもなく、基地がやっぱり重要性が高まったと言われることは、逆に基地のそれだけの、捉え方によれば危険性が高くなってくる、こういうことにもなるんじゃないかと私は思うんですね。

それで、もう一つ聞いておきますけど、中期防衛計画の将来見通しがどういうふうになるかわかりませんが、私どもは、防衛政策は。わかりませんが、こういう形で、いわゆる具体的な防衛作戦計画に入っていく基地ができてくるとなると、美保基地がですよ。非常に場所的にも全国展開するのにいい位置にあるということから考えると、例えば、一番みんなが心配しているのは、一番心配してるのはおかしいが、ジェット戦闘機基地化はしないという協定がありますけども、オスプレイという配備も将来的には可能性を秘めてくるということにもなるんですよ。これは機密事項ですから、そうは簡単に言われんでしょうけども。いわばそういう中期防衛計画というものが中央で、中央って失礼だけど、決まってくれば、その中には、場所のいい位置に美保基地があるからオスプレイをそこに配備をしていくという検討の中にも風が起こってくりゃしないかという心配を抱くんですが、そういうことはないんですか。

**○矢倉委員長** 本多企画部長。

**○本多中国四国防衛局企画部長** 企画部長、本多でございます。

確かに、国の防衛計画自体はあれですけど、現段階で中期防衛力整備計画という形で令和元年度から5年度にかけての基本的にこの中で定まってる事項以外のことは、現状、我々

としては考えておりません。オスプレイの今、御案内ありましたけども、陸上自衛隊のほうでオスプレイ、中期防衛力整備計画においても整備する方針でございますけども、基本的に佐賀空港のほうに今お願いすることで地元と調整しておりますので、美保基地ということは、現中期防衛力整備計画においてそういったものはございません。美保基地のほうに配備とかそういったものはございません。

○矢倉委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 いやいや、終わり。

○矢倉委員長 ほかにございませんか。

誰だったかいな。田村委員。

○田村委員 田村です。覚えておいてください。

質問させてください。現在、小牧にあるKC-767、これの運用実績というのはどうなってるんですか。いわゆる訓練じゃなく、実際に出撃した、支援行動を起こした、そういったものはあったのでしょうか、伺いたいです。いわゆる、本当に空中給油を行った、そういうものはあったのか、4機態勢で。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 小牧のKC-767のほうで空中給油というのは、各自衛隊の各部隊と訓練を行われております、日常的に。

○矢倉委員長 田村委員。

○田村委員 ということは、訓練ということですよ。訓練、4機で足りてるという状況なんですね。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 そうですね。足りてるというところはあれですけども、現状はKC-767、4機を用いて各航空自衛隊の部隊と訓練を行ってきたというところでございます。

○矢倉委員長 田村委員。

○田村委員 結局、今、ちょっと皆さんというか地元の声なんか聞いてみますと、何で6機なんだというところだと思うんです。2015年、防衛省が、KC-46Aですか、これの導入というのを決めた後に中国のああいって南沙諸島等のいわゆる政治、軍事的な整備っていうのがあったということで、南方でのそういう緊張が高まってるといっているのは、これは事実だと思いますし、それによって対応するというのは私は納得をしております。ただ、それがいきなり3機だったのが6機っていうのは、今、冒頭に、いわゆるアラート鳴ってから上に上がるよりは、絶えず何か待機をしておってというような話がありました。そういうものって、ちょっと現実的に本当にするんでしょうか。

それと、あと、そういう対応を小牧も同時にされているんでしょうか、既に。それを聞きたいです。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 済みません。冒頭、そういう空中警戒待機を今後取る形になるという御説明をさせてもらいましたが、現在において、平時に、平時といいますか、現在の我が国周辺の国際関係においては、そういった態勢をとっているわけではございません。ただ、今後そういった緊張が高まってくると、そういう態勢をとったほうが、より

我が国の安全保障ですね、そういった早期対処が可能になるということから、そういう体制をとっても大丈夫なようにということで、今回、こういった装備品を装備して態勢を整えるということをごさいます、現状において何かそういった、何か常に戦闘機が飛んでるような状況をとってるわけではごさいます。済みません、ちょっと説明が、申しわけありませんでした。

○矢倉委員長 田村委員。

○田村委員 わかりました。それであれば、了解でございます。

それで、この美保に配備されるものが、いわゆる展開するエリアというのは、もう日本全土、要は北から南までなのか。例えば、小牧と分け合って、小牧は北のほう、美保は南のほう、そういった守備範囲っていうのは分かれるものなのか、伺いたいです。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 まだちょっと装備品が到着していない段階で、なかなかあれですが。済みません、その運用の状況をちょっとつまびらかにするのはなかなか、済みません、難しいものがございますので、ちょっとそこは控えさせていただきたいと思いません。申しわけございません。

○田村委員 わかりました。

○矢倉委員長 田村委員。

○田村委員 いわゆる美保、普通に考えて南のほうで、僕も那覇行ったとき、スクランブルでどんどん飛んでいくのを見たことがあります。いわゆる南方、九州だったり、そういったところの配備のほうで、到着する、そのエリアに、作戦エリアに到着するのに早いし、そっちのほうで合理的なんじゃないかなと思ってるんですが、その辺を越えて美保に来た理由、先ほども質問が上がってございましたけれども、ちょっと地域として、あ、なるほどねと思える理由というのが特にあれば教えていただきたいと思いません。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 御案内のとおり、確かに昨今、南西空方面でのそういった緊張、緊張が高まっているという言い方があれですけども、実際スクランブルがふえたのは事実。他方で、やっぱり北方においてもロシア軍の活動というのも、最近やっぱり急激にロシアの経済的なあれも復活して活発化してきているという中で、やはりどちらかに偏ってというよりはトータル的なものを勘案してということと、やはりいろいろそれぞれの戦闘機部隊の基地の地積、追加整備ができる余積があるとかかですね、そういったものを総合的に勘案して、やはり美保のほうは一番適しているという判断になったというふうに御理解賜ればと思いません。

○矢倉委員長 田村委員。

○田村委員 これは情報で、アメリカ空軍にことし納入されるもの、納期がおくれとったものがさらにおくれそうだったんだけど、カメラですか、軽微な配線のトラブルがあったということがあります。それを越えても納入するということを米空軍が発表しておるんですが、やはりこういったものも、そういう、ちょっと疑義というか、ちょっとしたトラブルも抱えながらもこの導入計画というのは進めていくということなんでしょうか。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 先ほどありましたKC-46Aについては、ボーイング

767をベースに開発したというところで、開発段階においていろいろ各種ふぐあいがあったというような報道等もなされているのも事実でございますが、当然、改造したところ等も含めて、米連邦航空局の安全性による確認だとか、そういったところ、当然、米空軍もそれなりに確認した上で改良等がなされて、本年1月から米空軍に納入が開始されたというふうに認識しておりますので、当然、安全性の確保ということには米軍も一応の担保とってる。かつ、我が国においても、航空機納入後も国土交通省の定めた安全に関する基準ですとか、防衛大臣が定めた安全性に関する基準に基づいて飛行実験を段階的に実施して、その安全性について十分検討するというようにしておりますので、当然、安心、安全な運用を確実にさせていただきたいというふうには、最低限それは必須だと思っております。

**○矢倉委員長** 田村委員。

**○田村委員** ぼちぼち終わりにしますけども、ちょっと、いわゆる空中給油機という言葉だけがすごく大きく捉えられてて、実はあれ輸送機でございます。平成28年に767が来たときにも内部見させていただきました。おおよそ200名程度、真っすぐ座れる状況の輸送ができると。今度のKC-46Aについては、それはちょっと減って110余名ですか、あと、傷病者と50数名というような、担架と歩行可能な方というような区分で、いずれにしても災害発生時等に活躍でき得る機体だというふうに私は考えております。中には、機体の中、いわゆる客室部分、キャビンの中が、ジェットエンジン、いわゆるジェット燃料で満たされてるんじゃないかとか、そういうことを言われる方もいらっしゃるんです。そういったことの内部についての情報公開というのはしっかりしていただかないと、やはりそういったことに疑問を持って、何か上にガソリンスタンドが飛ぶようなもんだみたいなことをおっしゃる方までいらっしゃる。そのあたりの広報というのはしっかりしていただきたいというふうに思うんですが、そのあたりの見解をお伺いします。

**○矢倉委員長** 本多企画部長。

**○本多中国四国防衛局企画部長** なかなか、確かに、そういう防衛装備品ですので全部の情報をつまびらかにすることは難しいところはございますが、そういう、今、貴重な御意見として市民の方々からの観点というところをいただきましたので、そこは広報のあり方も含めて十分検討させていただきたいなというふうに思います。

**○田村委員** じゃあ、よろしく申し上げます。以上です。

**○矢倉委員長** ほかにございませんか。

委員の方、番外発言求めてよろしいですか。

**○矢倉委員長** どうぞ、名前言って質問してください。どうぞ。

**○岡村議員** 日本共産党米子市議団の岡村です。

私、1点、お伺いしたいと思います。資料の4ページ目に関することなんですけども、一番下段のところに移動計画ということでT-400の約10機移動予定ということで、令和2年度ということでお話をしてあります。教育部隊が浜松に移動するということなわけなんですけども、浜松基地周辺の住民の皆さんがこの移動に反対をされているというふうなこともあって聞いとるんですけども、そこでちょっとお伺いしたいのが、このT-400移動とKC-46Aの配備というのは当然リンクをしていると、基地機能的にですね、いうふうに考えるんですけども、逆に言うと、このT-400の移動がない段階でKC-46Aというものの配備は考えてないのか、その辺についての考えをお伺いしたいと思います。

す。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 済みません。まず、T-400が浜松のほう、地元の同意がまだ得られてないという、ちょっと御発言だったんですけど、済みません、今年の5月にこれについては地元の同意をいただいているということでございます。リンクという、ちょっとあれなんですけども、当然所要の整備、向こうでの施設整備等、必要になるところがあるかと思われませんが、そういったものを行った後に移動ということになりますので、リンクという意味では、済みません、KC-46Aとは別に何かつながっているというものはございません。

○矢倉委員長 岡村議員。

○岡村議員 地元では同意したかとかというふうに言ったわけではないです。反対の運動があるというふうに言いました。

再度確認しますけども、移動が前提と、KC-46Aの配備は、ということで理解していいんですか。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 T-400、移動が前提という趣旨がちょっとあれですけど。KC-46Aの配備計画とT-400の移動計画についてはリンクしておりませんので、前提とか、あれなんですけども。リンクはしておりません。

○矢倉委員長 誰だかい。

○岡村議員 岡村です。

○矢倉委員長 岡村議員。

○岡村議員 リンクしてないと言われましたけど、一番最初にKC-46Aの配備の説明のときに、あわせてT-400の移動といったことが説明されて、浜松に行くんだと。その中で、KC-46Aが配備されるというふうに説明があったと思うんです。移動しなくても、基地機能としても、またスペース的にもKC-46Aの配備が可能なのですか。

○矢倉委員長 本多企画部長。

○本多中国四国防衛局企画部長 現配備計画において、なかなか時期的なものはちょっと難しいですけども、KC-46Aは令和2年度に入ってきます。2年度に移動予定のT-400でございますので、時期的なものはちょっと現時点ではあれですけども、ただ、他方でオーバーラップしたとしても、それは運用等は可能だというふうに考えておりますけども。

○矢倉委員長 よろしいですか。

〔「なし」と声あり〕

○矢倉委員長 じゃあ、ほかにないようですので、よろしいですね。

以上で基地問題等調査特別委員会を閉会いたします。御苦労さまでした。

午前11時27分 開会

米子市議会委員会条例第29条第1項の規定により署名する。

基地問題等調査特別委員長 矢 倉 強